

検体検査

輸血検査

「安全で適正」な輸血医療が行われるよう、臨床検査技師が24時間体制で輸血業務を実施しています。

輸血検査

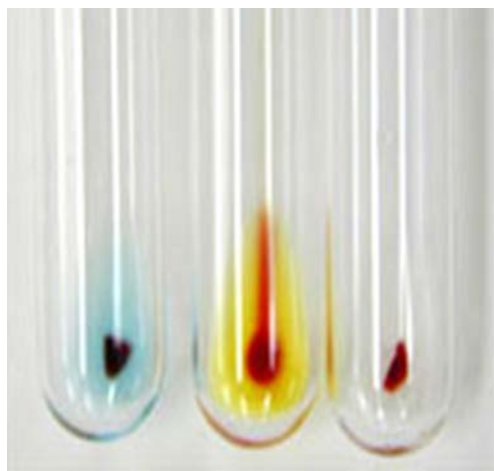
患者さんの血液型(ABO式やRh式)の検査や、患者さんの血液と適合した輸血用血液を準備するための交差適合試験、輸血副作用の原因となる不規則抗体スクリーニングなどの検査をおこないます。

輸血用血液の管理

赤十字血液センターへ輸血用血液を発注し、納品された輸血用血液を適正な温度で保管しています。適合と判定された輸血用血液を診療科へ払い出します。輸血の副作用について情報を収集します。

自己血輸血

予定された手術での出血に備えて、患者さんから予め採血した血液を保管しておき、手術時にその血液を輸血することを自己血輸血と言います。この自己血の管理をおこないます。



血液型試験



輸血分析装置



赤血球濃厚液



新鮮凍結血漿



血小板濃厚液

赤血球濃厚液：貧血などで全身に酸素が十分に供給できないときに使用します

新鮮凍結血漿：凝固能が低下し出血しやすい状態のときに使用します

血小板濃厚液：血小板が低下し出血しやすい状態のときに使用します

輸血を受けられる皆様へ

輸血用血液製剤は、安全性を確保するため、感染原因となるウイルス検査をするなど様々な感染防止対策が講じられています。しかしながら、最新の検査法に基づいて安全対策がなされたとしても、輸血後感染症を完全に防ぐことはできません！

輸血を受けられた方は、輸血後感染症の有無を確認するため、輸血後3カ月の時点でB型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス・HIV(エイズ)ウイルス検査を受けることをお勧めします。

移植検査

臓器移植が安全に行えるよう、移植前には移植希望者と提供希望者の組織適合性を調べる検査をおこないます。

白血球の血液型であるHLAは、ヒトの免疫に関わる重要な分子です。自分のHLAのタイプに合わないものはすべて異物と認識して攻撃してしまうため、ドナーとレシピエントのHLA適合性検査が重要となります。

代表的な検査項目

HLAタイピング（PCR-SSP法）

HLA抗体スクリーニング検査（Flow PRA法）

HLA抗体同定検査

リンパ球交差適合試験（LCT法、FCXM法）

ABO血液型抗体価検査



抽出したDNA

抗HLA抗体（スクリーニング検査）及び抗HLA抗体（抗体特異性同定検査）の測定に関する施設基準および精度管理保証について

当院は以下の施設基準を全て満たしています。

- ア. 区分番号「B001」の「25」移植後患者指導管理料（臓器移植後の場合に限る。）に関する施設基準の届出を行っております。
- イ. 関係学会による指針を遵守し検査を実施しています。

「イ. 関係学会による指針の遵守」について

当検査部は、日本組織適合性学会 QCWS 参考プロトコルに基づいて検査を実施し、毎年開催される QCWS（精度管理）に参加しています。

[QCWS 評価表（JCHO 中京病院）.PDF](#)

[第 21 回 HLA-QC ワークショップ レポート \(PDF\)](#)

このページのURL

<http://chukyo.jcho.go.jp/?p=387>